



(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2023年 6月 28日

茨城県知事 大井川 和彦 殿

提出者

住 所 茨城県鹿嶋市大字平井字灘2276-2

氏 名 AGCセイミケミカル(株) 鹿島工場

工場長 藤江 彩子

電話番号 0299-84-0808

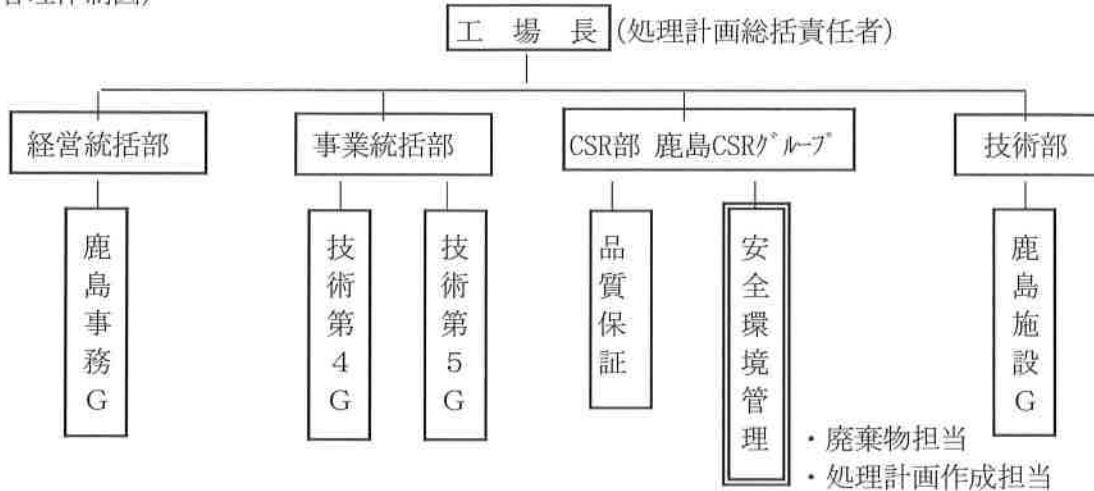
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	AGCセイミケミカル株式会社 鹿島工場
事業場の所在地	〒314-0012 茨城県鹿嶋市大字平井字灘2276-2
計画期間	2023年 4月 1日 ～ 2024年 3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類： E 製造業 中分類： 16 化学工業
②事業の規模	前年度の製造品出荷額 24億6千万円
③従業員数	114人（派遣社員19人含む）【2023年3月末時】
④産業廃棄物の一連の処理の工程	鹿島工場 汚 泥 — 委託処理（中間処理：脱水又は焼却） 廃 油 — 委託処理（中間処理：焼却又は油水分離） 廃プラスチック類 — 委託処理（中間処理：破碎又は焼却） そ の 他 — 委託処理（中間処理：破碎）

(日本産業規格A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（2022年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃 油	廃プラスチック類	その他
	排 出 量	819 t	164 t	48 t	8 t
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物の年間総排出量は1039 tであった。前年度よりも85 t減少した。汚泥及び廃油の総排出量が前年度よりも72 t減少した。 その他とは、「木くず：6 t」及び「ガラスくず：2 t」である。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃 油	廃プラスチック類	その他
	排 出 量	850 t	200 t	60 t	10 t
	(今後実施する予定の取組) 前年度よりも本年度は生産量の増加が見込まれる。それに伴い汚泥、廃油、及び廃プラスチック類の排出量の増加が見込まれる。 原単位に注視し廃棄物の排出量を監視していく。				

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類：廃棄物として処理するものと有価物として売却できるものとを分別し、廃棄する量を削減している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類：今後も上記内容を継続していく。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（2022年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃 油	廃プラスチック類	その他
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 自ら再生利用は行っていない。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃 油	廃プラスチック類	その他
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 今後も自ら再生利用を行う計画はない。				

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（2022年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃 油	廃プラスチック類	その他
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 技術第5Gのイオン交換膜事業に関しては、局排設備を設け 廃ガス燃焼炉を設置し処理している。 この施設で熱回収は行っていない。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃 油	廃プラスチック類	その他
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 汚泥の排出量を削減する為の施策を検討する。				

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（2022年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃 油	廃プラスチック類	その他
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） これまで、自社で埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃 油	廃プラスチック類	その他
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） 引き続き埋立処分又は海洋投入処分する予定はない。				

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（2022年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃 油	廃プラスチック類	その他
	全 処 理 委 託 量	8 1 9 t	1 6 4 t	4 8 t	8 t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	2 8 t	1 6 4 t	4 8 t	8 t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	7 9 1 t	t	t	t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	t	t	t	t
	（これまでに実施した取組） 汚泥については発酵堆肥化施設を有する再生利用が可能な委託業者に処理を委託している。 優良認定処理業者をなるべく選択し処理を委託している。				

②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚 泥	廃 油	廃プラスチック類	その他
	全 処 理 委 託 量	850 t	200 t	60 t	10 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	30 t	200 t	60 t	10 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	820 t	t	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>汚泥については、引き続き発酵堆肥化の再生利用が可能な処理業者への委託を行う。</p> <p>汚泥、廃油、及び廃プラスチック類については、生産量の増加に伴い排出量が増加するが処理能力が十分にある処理業者へ委託し、且つ、優良認定処理業者への処理委託を継続して行う。</p>				
※事務処理欄					

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。